

姿勢・動作観察（分析）—特に座位と背臥位について—

六地藏総合病院 リハビリテーション科 渡邊裕文

我々は臨床場面で患者様の様々な基本動作を観察する。多くは最高機能と考えられる歩行を観察して、そこから問題点を抽出する。これは目的とすることを実施するために、ベッドなどから離れること（移動すること）を、歩行を獲得することを、まず主訴として挙げる患者様が多いことが理由と考えられる。このような患者様でも、実際は座位活動に問題があったり、起き上がりに問題があったりする患者様も多く、また背臥位姿勢からその問題が著明に現れている患者様もいる。

本セッションでは、特に座位、背臥位の姿勢動作観察について説明していく。ポイントを以下に記載する。

- 1 特に脳血管障害患者の座位、背臥位を理解する。
- 2 座位（最適な座位）とは何か、その構成要素を考える。
- 3 座位および背臥位の観察（分析）の視点を再確認する。
- 4 可能なら座位から背臥位への動作の構成要素を考え、背臥位（活動的な背臥位）とは何かを考える。

上記について可能なら実技を交えながら解説していく。